留学生の就職体験談

（※下記は 2017 年 3 月 10 日に新潟大学で開催された「工学教育国際フォーラム in 新潟」における Namsrai Bayanmunkh 氏の講演内容をまとめたものです）

〇氏名：Namsrai Bayanmunkh（ナムスライ バヤンムンフ）氏（2014 年 3 月 工学部卒業）
〇出身国：モンゴル
〇就職先：株式会社本間組

①会社の紹介

本間組は１９３４年創業の８０年以上の歴史がある会社です。総合建設業（ゼネコン＝ゼネラルコンストラクター）であり，新潟本社の他，全国各地に支店営業所を展開しています。

建築事業では，新潟県内のランドマーク物件の豊富な実績があります。また，土木事業では，トンネルやダム以外にも空港や港湾施設といった港湾土木を得意とする，いわゆるマリコンでもあることが当社の特徴です。

②現在の担当業務

私の担当業務は「施工管理」です。大きな役割としては，建設工事に関する原価，工程，品質，安全，環境の五大管理を行っています。

実際に自分たちが作業に従事するわけではなく，建設工事を進めるリーダーの役割を担っています。作業計画を立てて，作業員の方々に指示を出します。

③新潟の企業に就職した理由

大学の 4 年間で新潟に住み慣れて，今では故郷のように感じています。学生時代にできた友達や，お世話になった方々が新潟にいます。

仕事や生活面でのサポートをしてくれる方々や，一緒に遊びに行ってくれる友達が新潟にいるので，就職先は新潟の企業を選びました。

④留学生として働いて感じたこと

【長所】

母国と異なる職場での日本独特の文化，仕事の進め方，コミュニケーションの仕方や日本人の考え方などを学ぶことができます。例えば，他人の事を親身に考え，人に迷惑をかけないような行動を起こすことが日本人の魅力の一つだと考えています。

また，母国と日本の文化を両方理解しているため，「架け橋」となって，相手国とのビジネスをスムーズに進めることができます。

さらに，日本は様々な分野で優れた先端技術を持っており，多くのことを学べます。

（例：鉄道，ロボット技術，建設業，医療など）

そのため，帰国後も日本で学んだことを活かせると思います。実際，日本企業で働いていた母国の先輩達の中にも，帰国後に起業した人や成功した人が多くいます。

【短所】

言葉の壁です。たとえ日本に長期滞在していても，日本語で自然に話すことは難しいため，日本人が話している内容が分からない時があったり，自分の言いたい事を上手く伝えられなかったりする時があります。

⑤大学教育に期待すること

資格取得にも繋がるような専門的な講義内容を大学のカリキュラムにもっと導入してほしいと考えます。日本企業に就職すると資格が必要になる場合が多いです。

（法律労務系，IT 情報系，建築土木系，技術系，医療福祉系，語学教育系など）

会社が必要とする資格を取得すれば，自分自身のスキルアップにも繋がりますし，会社への貢献にもなります。

社会人になると，学生時代と違って勉強する時間が限られてきます。一方，学生時代は勉強することが生活の中心であって，それ以外の時間は自由でした。

今になってみると，学生時代に資格の勉強をしておけば良かったと思う時があります。